

## 歯科小委員会

「子どものむし歯0（ゼロ）へのチャレンジ」  
ー 歯科小委員会の取組ー野田 直美<sup>1</sup>、比嘉 千賀子<sup>2</sup>、上原 尚美<sup>3</sup>、加藤 真由美<sup>4</sup>、當間 隆也<sup>5</sup><sup>1</sup> 沖縄県歯科衛生士会 <sup>2</sup> 沖縄県保健医療部 八重山保健所 <sup>3</sup> かなさ保育園 園長<sup>4</sup> くばがわ歯科医院 <sup>5</sup> Kukurukissクリニック

生涯を通じ健康的にいきいきと活動できる生活習慣を形成することを目的として設置された5つの小委員会の一つとして歯科小委員会があり、歯科医師、歯科衛生士、保育士、保健師、小児科医が委員として参画しました。

活動テーマを検討する中で、乳歯や永久歯のむし歯、成人の疾病だと考えられている歯肉炎が小児期にもみられることや食べ物を噛めない、飲み込めないなどの食べる機能の問題など、小児期においても歯や口の機能を健やかに育てていく視点が重要だという認識を共有しました。これらの問題の中で、歯の質や歯並び、噛む機能等へ影響を及ぼす「むし歯」の予防を優先して取り組むことになりました。

小児期といっても、乳歯列期、乳歯と永久歯が混在して生えている時期、永久歯列の完成期に分かれています。沖縄県の場合、乳歯列期、永久歯列完成期ともに全国に比較し、むし歯の有病者率が著しく高い状況でした。

小委員会の活動が始まる少し前に、沖縄県小児保健協会の特別研究において、沖縄県の3歳児のむし歯有病者率に影響を与える生活習慣等に関する分析結果が公表されました。この結果を受け、県は幼児のむし歯予防対策プロジェクトを平成28年度からの開始を検討していました。そこで、小委員会では、さらに永久歯のむし歯予防に活動テーマを絞り込みました。

むし歯の原因は細菌、糖分、歯質の3因子であり、対策も3つの方法があります。これは既によく知られていることでした。しかし、歯質対策として、有用性が科学的に証明されているフッ化物の応用については、学齢期で家庭や学校等で利用可能なフッ化物洗口については十分に啓発が進んでいない状況でした。

これらについて小委員会として、重点的に取り組んだ内容を報告致します。